

## 事業2 SDGs リサーチプロジェクト

### 1 これまでの経緯と構想について

本校が、高校1学年で地域課題解決型PBL「Project Based Learning」である千葉市創生プロジェクトを開始したのは今から5年前（2015年度）である。本事業に指定される前年度（2018年度）に、「千葉市創生プロジェクト」はちょうど実施3年目を迎えていた。校内での総合的な学習の時間検討委員会では、3年目の実施を受け、総合的な学習の時間についての課題を整理しようという機運が高まった。そこで出てきた課題が次の4点である。

- ① 3年間の探究活動のカリキュラムの系統性
- ② 生徒自身による主体的な問題意識の醸成
- ③ 卒業後の進路のミスマッチの解消
- ④ 探究における内容のさらなる充実

本校は普通科の「附属中からの内部進学生（A B組）」、「高校からの外部進学生（C～G組）」、「国際教養科（I組）」の3つのグループに分かれている。

資料1に示すように、①については、従来の本校の「総合的な学習の時間」は、それぞれ目的を異にする学校行事や進路と結びついた学年ごとに分断されたものとなっており、3年間で探究活動を一貫して行うというカリ

キュラムになっていなかった。また、高校2年では、語学研修と修学旅行に分かれ、それぞれ異なる学習が行われ、発表もそれぞれ行われていた。さらに、地域との連携や地域創生というビジョンが先行していたため、生徒自身が主体的に問題意識をもって取り組めていなかったことも課題だった。

これらの課題を克服するために目指していく探究活動の形を示したのが次の①～④である。それぞれ先の課題の①～④に対応する形で言語化している。

- ① 3年間で継続した探究活動を展開する。
- ② 世界や地域を教材とし、自分自身で課題を立てる。
- ③ 探究活動を通し、自己の在り方生き方を考える。
- ④ 大学の学びとの関連性を意識した資質・能力をカリキュラムの中に位置付ける

岩手県立大船渡高校が行っている「大船渡を学ばない大船渡学」のように、あくまでも探究活動は「生徒自身が課題を立てて調査し、それを受けてまとめて発表する」が大事だ。結果の発表成果が注目されがちだが、むしろその過程でどのような力が付くか、どのようなことに気づくかを大切にすべきである。失敗しないように指導することも大事だが、失敗それ自体も次の探究活動やその後の人生に活かせばよい。

必要な資質・能力の育成についても、総合を柱としてプレゼンテーションなどの発表スキルだけでなく、情報を収集・整理するスキルやレポート・論文を叙述するために必要なスキル、批判的かつ創造的な思考力をバランスよく育成できるよう計画を作ることが必要である。

こうした議論を形にしていく過程で、本校は本事業の指定を受けた。そして実際に令和元年度入学生からは1学年後半から3学年前半まで貫く探究学習として「SDGsリサーチ

### 資料1 従来の「総合的な学習の時間」

#### 従来の「総合的な学習の時間」

	共通	A B	C～G	I
3年	進路学習			
2年		秋期語学研修	夏期語学研修 修学旅行	秋期語学研修
1年	千葉市創生 プロジェクト			

附属中

チプロジェクト」を実施することを計画した。これまで行ってきた「千葉市創生プロジェクト」と新たに開始する「SDGsリサーチプロジェクト」がどのような関係にあるのか、どのように指導していくのかを整理したのが、**資料2**である。

探究活動を支えるのは、表現力や思考力などのアカデミックリテラシーと学びに向かうモチベーションである。このどちらもバランスよく培うことが必要だ。令和元年度の「総合的な探究の時間」では、まずグローバルな課題についての視野を広げるために、SDGsについてのワークショップを行った。

そして、大学の先生による講演によってアカデミックリテラシーを学び、実際にSDGsの17の目標から1つ選びレポートを作成する課題を通して、情報収集のスキルとレポート作成のスキルを身に付けた（講演会等詳細は昨年度の報告書を参照）。こうして学んだことを踏まえ、今度はローカルな千葉市を舞台として（これには子どもたちにとって一番ローカルな地域である学校も含まれる）、身近な疑問をもとに探究をする「千葉市創生プロジェクト」を行った。このプロジェクトを通して、生徒は、フィールドワークのスキルや電話でのアポ取りのスキル、アンケートのスキル、プレゼンのスキルなど、アカデミックリテラシーを体験的に身に付けることができるようにする。

この「千葉市創生プロジェクト」の後に、グローバルそしてローカルな課題を踏まえ、自己の興味関心でテーマを選んで探究活動を行っていくのが「SDGsリサーチプロジェクト」である。興味関心の近い集団をゼミナール（通称ゼミ）として編成し、各ゼミごとに活動を行っていく。初年度の令和元年度は、学年内だけでゼミを編成したが、来年度以降は年次進行で学年横断型のゼミへの移行を目指していく。部活動で先輩が後輩に指導・助言をするように、学年横断型のゼミでも異なる学年間の交流によって、生徒同士が助け合い学び合うことによる探究の学びの促進をもたらすピアサポート効果を期待してのことである。

詳しいゼミでの活動については昨年度の報告書で説明した通りだが、ここでは昨年度報告書に盛り込むことができなかつた、高校1学年末時点での探究テーマや生徒のコメントを整理して紹介したい（**資料3・4**）

### 資料3 生徒の探究テーマ（一部抜粋）

- ・世界の国々における古典学習の比較
- ・なぜ似ている妖怪が各地で生まれたのか
- ・人々がもう一度見たいと思う映像動画の共通点
- ・千葉県で効果的な新しい町おこしはどのようなものが良いか
- ・地球温暖化による生態系のくずれに対して政府はどのように対応しているのだろうか
- ・過疎地域と過密地域の観光客人数の差は過疎地域に住む人々の生活水準にどのような影響を与えるか
- ・海外スーパーと国内スーパーの販売戦略の違いは何か
- ・幼児が使いやすい食器の形状
- ・睡眠の質を高める栄養素を使った料理
- ・サッカーを基にしたニュースポーツの提案

## 資料2 新しい探究活動の指導イメージ

### 新しい探究活動の指導イメージ

3年	SDGsリサーチプロジェクト③	探究内容の言語化 (プレゼンテーション・論文執筆)
2年	SDGsリサーチプロジェクト②	仮説検証 (海外研修・フィールドワーク 文献調査等)
1年	SDGsリサーチプロジェクト①	自己の興味関心に沿った 課題設定と探究活動
	千葉市創生プロジェクト	アカデミックリテラシー 世界と地域の課題への関心

#### 資料4 生徒のコメント（令和元年度末にアンケート実施、一部抜粋）

- ・私は将来は英語を使った職業に就きたいと思っていたので、文学・語学系のゼミを選びました。しかし、探究を進めていく中で、自分が学びたいのはこれではないかもしれないと思い、じゃあ何を学びたいのか、進路について真剣に考えるようになりました。
- ・知らなかったけど実はめちゃくちゃ面白いものってすごく身近にあるんだ、と身をもって経験しました。どうしても自分とはかけ離れた遠くのものに憧れや尊敬、好奇心で強く惹かれてしまうけど、足元を見てみると自分の踏んでる土地も見たことない物や謎の物質が混じってるわけです。
- ・今まで知らなかったことを調べることで、社会に対する見方も変わり、また研究を深めていくことで、今まで興味がなかったことにも関わることができ、自分の中で新たな世界が広がった気がします。
- ・自らが日常で抱いた疑問を一つの学問として深く追究していく事で私たちの生活は色々な学問で支えられていることに気づけました
- ・わたしはこのゼミナール活動を通して、自分で自分の疑問を解決することの大切さを知りました。普段なんでだろうと思うことはたくさんあるけどそれを解決しようとはしないし、しても軽く検索するだけです。けれどこの活動では自分で疑問を探しそれを計画書としてどのように調べるかを考えこれからそれを実行していきます。大変ではあるけれど自分で解決することで学ぶものはたくさんあると思います。だからわたしはこれからこの活動をがんばっていきたいです。

## 2 令和2年度のSDGsリサーチプロジェクト

### (1) 前期 2学年のゼミナール活動について

令和2年度前期は、昨年度からの臨時休校が継続していたため、6月より新年度の授業が実質開始された。2学年では昨年度の最後に行っていた「SDGsリサーチプロジェクト」の探究テーマについて、ゼミ内で発表する中間発表を2回に分けて、下記のスケジュールで行った。

- 第1回（6月9日）中間発表の準備
- 第2回（6月16日）中間発表（1回目）
- 第3回（6月23日）中間発表（2回目）

中間発表の形式は、1人5分間の口頭発表で、1学年の最後に提出した「探究計画書」をもとに、①テーマとその設定理由、②具体的な手法と進捗状況、③前期末までの計画や展望の3点について、ゼミ職員及び他のゼミ生の前で発表するものとした。他の生徒の前で研究テーマについて口頭で説明する経験は大いに刺激となった。

後述の通り、7月以降は普通科内進、外進、国際教養科の3つのグループでそれぞれ別のプロジェクトに取り組むため、ゼミナール活動は中断することになるが、各自のペースで探究活動を進めていくこととなる。

8月から3週間程度の「夏休み」の間には、「fromページの夢ナビ講義動画」の視聴課題を課した。本年度、大学・短大・専門学校などのオープンキャンパスが行われられないという状況下での進路指導的な側面はもちろん、自分の探究テーマや興味関心と関連する大学の講義動画を視聴することで、生徒の学びたい分野に対する理解はより深まったと言える。

(2) 後期 1 学年・2 学年合同ゼミナールについて

①活動計画 (全6回) (資料5)

**資料5 合同ゼミの実施計画**

No.	日程	活動		活動計画	
		単位	内容	第2学年	第1学年
1	1月12日	合同	共通	各ゼミナール別：オリエンテーション	
2	1月19日	合同	分割	探究論文の執筆	探究主題の設定
3	2月2日	合同	分割	探究論文の執筆	探究方法①：仮説や手法の検討
4	2月9日	合同	分割	探究論文の執筆	探究方法②：資料の調査・整理
5	2月16日	合同	分割	探究論文の執筆	探究計画書の作成
6	3月2日	合同	共通	各ゼミナール別：アドバイス	

②ゼミナールの編成

高2のゼミナールをもとに、高1生徒に希望調査を実施した。ゼミナール編成自体は昨年度と同じように区分している。その中で生徒の人数や興味関心に応じて、実際の授業では小集団に分けて実施しているゼミも存在する (資料6)。

**資料6 令和2年度ゼミナール編成**

分野	No.	学問系統	分野	No.	学問系統
人文科学	1	文学・言語学	自然科学	7	物理学・化学
	2	歴史学・文化学		8	生物学・農学・医療
	3	心理学	融合分野	9	教育学
社会科学	4	法学・政治学			栄養学
	5	経済学		10	スポーツ
自然科学	6	数学	芸術		
		情報科学			

③活動内容

ベースとなる活動は昨年度からの継続となるため、特に変更点のみを説明することとする。まず、本年度の活動から1学年と2学年の生徒が同じゼミで活動するようになった (資料5)。ゼミごとに活動形態が異なるが、同じ場で異なる活動を実施し、2学年生徒の研究テーマを1学年生徒に発表するなどの活動を実施している。また2学年生徒については、探究テーマを再度確認し、調査・研究の上、探究論文の執筆に入っていく。

また、本年度は高校1学年生徒に対し、冬季休業中の課題を指示し配付した (資料7)。昨年度もゼミによって独自の課題を実施していたが、本年度は1月から本格的なゼミの開始ということもあり、一括しての課題提示となった。課題の内容については、本を1冊読み課題プリントに記入し、関連文献を5冊以上提示するという活動で、図説・参考

書ではなく専門書を読むこと、文献は『課題探究メソッド』で調べることを指導した。

ゼミナール活動については、報告書を作成する現在も進行中の活動であるため、本報告では主に昨年度の活動報告と本年度の計画説明とし、来年度の報告書ではさらに詳細に報告したいと考えている。

## 資料7 冬季課題

冬季課題 提出期限：1月19日（火） 期限厳守

【課題1】 興味関心のある分野

（記入例：「なぜ日本人は空気を読むのか」「江戸時代の暮らしとは」）

【課題2】 興味関心のある分野に関連する文献

（専門書を挙げる。資料集や参考書、図説は避ける）

著者・編者 /文献名『 /出版社 /出版年 年

（記入例：著者・編者 松尾恒一 /文献名『日本の民族宗教』 /出版社 筑摩書房 /出版年 2019年）

【課題3】 【課題2】で挙げた本の内容を書いてください

（要約、研究史上でその本の内容が持つ意味、筆者の言いたいことなど）

【課題4】 興味関心のある分野に関連する本を5冊以上リストアップする

①著者・編者	/文献名『	』/出版社	/出版年	年
②著者・編者	/文献名『	』/出版社	/出版年	年
③著者・編者	/文献名『	』/出版社	/出版年	年
④著者・編者	/文献名『	』/出版社	/出版年	年
⑤著者・編者	/文献名『	』/出版社	/出版年	年

※不明点等があれば、ゼミ担当の先生まで聞きに来てください。

## 高1・高2合同ゼミナールの様子



### 3 高校2学年探究活動の概要

#### (1) 普通科内進生（2年A・B組）の取組

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で語学研修が中止となったため、探究活動の内容が変更となった。2年A・B組は英語表現Ⅱと総合的な探究の時間を使い、SDGsについての調査を行った。グループごとに17の目標の中から興味のあるものを1つ選び、その目標に関連する事柄について、日本と他国を様々な角度から比較した。12月19日の「グローバルプレゼンテーション」（発表会）では、調査した内容を踏まえて、それぞれの国がSDGsを達成するためにはどのような対策を講じるべきなのかを提言した（資料8～11）。

**資料8 各班の概要**（提出された概要説明より。先頭にあるのは各班のグループ名。）

#### 2A White Feathers

##### SDG#4 - Quality Education Country Ethiopia

私たちのグループはSDG#4“Quality Education（質の高い教育をみんなに）”をテーマとして選び、日本とエチオピアについての調査と比較を行った。私たちは当たり前前に学校に通いそれほど不自由なく授業を受けることができているが、世界では175,000,000人の子供たちが学校に通う事が出来ていないと言われている。それらを踏まえ、入学率は日本と変わらないが退学率が60%と高いエチオピアと日本間の教育の質の差に注目した。SDG#4を実現するために、例としてエチオピアが取り組むべきことと他国ができることを考えた。調査の結果、エチオピアは学校環境の悪さ、先生の少なさ、通学の不便さが明らかになり、我々先進国は技術の提供等を通して支援することが必要だという結論に至った。

#### 2B Gold Faucet

##### SDG#6 - Clean Water and Sanitation Country Ethiopia

私たちのグループは、SDG#6“Clean Water and Sanitation（安全な水とトイレを世界中に）”をテーマとして選び、日本とエチオピアについての調査、比較を行った。エチオピアはアフリカにある発展途上国の一つで、世界で最も深刻な水不足の問題に苦しんでいる国だということを聞き、国民のほぼ全員がきれいな水やトイレを使うことができる日本との違いはどこにあるのかについて興味を持った。調査の結果、エチオピアには水源は多く存在する一方で、それを国民に均等に供給するシステムが揃っていないということがわかった。そこでエチオピアは日本のシステムを真似することでこの問題を解決できると考えた。しかし、エチオピアのみの経済力ではそれが難しいため、エチオピアは国連から経済支援を得る必要があると考えた。

#### 2A Rainbow Dinner

##### SDG#2 - Zero Hunger Country Kenya

私たちのグループはSDG#2“Zero Hunger（飢餓をゼロに）”をテーマとして選び、日本とケニアについての調査、比較を行った。近年、世界中で飢餓が深刻な問題となっていて、特にアフリカでは飢餓が深刻になっている。そのため、飢餓が問題視されているケニアと日本の食の違いを調べることにした。調査の結果、ケニアでは他の国から支援を受けて貧困層にお金を支給したり、乾燥している環境に対応した作物を作る政策をしていて、日本では高齢化による農業従事者の減少や栄養の偏りの問題があることがわかった。

## **2B Orange Oranges**

### **SDG#2 – Zero Hunger Country India**

私たちのグループはSDG#2 “Zero Hunger (飢餓をゼロに)” をテーマとして選び、日本とインドについての調査、比較を行った。近年、農業においても機械化が進み、大量に作物が取れるようになったことにより飢餓が減ったように思えるが、今もなお人口が増え続けているインドでは、飢餓により毎年多くの犠牲者が出ている。そこで日本とインドを農業や人口の面から比較をし、問題点やその解決策を考えた。調査の結果、日本では、農業用機械の不足は見られないものの、農地や農業従事者は不足している。一方、インドでは、農地や農業従事者の不足は見られないものの、農業用機械の不足が問題となっている。また、一つひとつの農地が小さいことにより、機械が使えないという問題がある。それを踏まえ、日本が農業用機械を、インドが農地や農業従事者を互いに貸し合うことで現状の問題が解決できるのではないかと考えた。世界においても同様に、足りているものと不足しているものを互いに貸し借りすれば世界の飢餓は解決へと向かうのではないかと期待している。

## **2A Red Hearts**

### **SDG#3 – Good Health and Well-Being Country The Ivory Coast**

私たちのグループは、SDG#3 “Good Health And Well Being (すべての人に健康と福祉を)” をテーマとし、日本とコートジボワールを比較した。現在コロナウイルス等の影響で世界中の医療現場や医療技術がますます注目されるようになった。私たちが焦点を当てたのは、子供たちとその母親の健康についてだ。世界中で小さい子供や、生まれる前の子供が、またその親が多くの命を落としている。世界中で少子化が進む中、子供の死は大きな問題であると考えた。調査の結果、日本は現在の発展した医療を保ち続けること、コートジボワールは、妊産婦の産前産後のケアや、適切な感染症検査を設けることが必要であるとわかった。

## **2B Rainbow Bridge**

### **SDG#7 – Affordable And Clean Energy Country Norway**

SDG#7である、“Affordable and clean energy (エネルギーをみんなにそしてクリーンに)” をテーマとして設定し、ノルウェーと日本を比較した。日本は先進国であるにも関わらず、エネルギー自給率が他の先進国と比べて極端に低い。一方で、ノルウェーは地形や気候を効果的に利用し環境に優しいエネルギーを生産し、他国にも提供している。そこでエネルギー大国、ノルウェーから学ぶべきものがあるのではないかと考えた。日本の現状の改善策としてまず、化石燃料の使用を減らすため、期限を設けてガソリン車を廃止すること、また、島国ならではの海岸線の長さや火山が多い地形を利用した波力発電や地熱発電を拡大することを提案する。

## **2A Yellow Sun**

### **SDG#7 – Affordable and Clean Energy Country Indonesia**

私たちのグループはSDG#7 “Affordable and clean energy (エネルギーをみんなにそしてクリーンに)” をテーマとして選び、日本とインドネシアについての調査、比較を行った。近年、地球温暖化などが問題視されている。インドネシアでは、地熱発電によるエネルギーの供給量が現在の何倍にもなる可能性があると言われていたため、どのような政策がされているのか興味を持った。調査の結果、インドネシアも日本もエネルギー供給のほとんどを火力発電が担っており、それによる二酸化炭素の排出が問題になっていることがわかった。そのため、どちらの国でも再生可能エネルギーを用いた発電を促進していくべきという結論に至った。

## **2B Purple People**

### **SDG#5 – Gender Equality Country Iceland**

私たちのグループはSDG#5 “Gender equality (ジェンダー平等を実現しよう)” をテーマとして選び、日本とアイスランドについて調べ、比較を行った。日本は男女平等の点で、世界の他の国々に遅れをとっている。また、女性の政治参加率も低くなっている。そこで、男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数がトップのアイスランドと比較し、考察したいと考えた。現在の日本は男女平等とは言えない。まず、日本はアイスランドをモデルとして男女平等を目指し、最終的にはアイスランドを含めた世界全体が、男女同権を実現する必要がある。

## **2A Emerald Oceans**

### **SDG#14 – Life Below Water Country USA**

私たちのグループはSDG#14 “Life below water (海の豊かさを守ろう)” をテーマとして選び、日本とアメリカの比較を行なった。日本は地理的にも昔から海と深く関わりながら発展してきた。しかし、先進国の中では海洋保全への対策があまり講じられていないと言われている。それに比べてアメリカは海洋保全への対策が進められている。私たちは日本とアメリカの違いに何があるのかに興味を持った。そこで私たちはプラスチックの違法投棄と乱獲の対策の違いという観点で調査をした。調査の結果、アメリカはどちらの対策もしっかりと行なっていた。それに比べて日本はまだ海洋保全への意識が少ないということがわかった。日本もアメリカの対策を見習えば海洋保全もできると考える。

## **2B Blue Fish**

### **SDG#14 – Life Below Water Country Palau**

私たちはSDG#14 “Life Below Water (海の豊かさを守ろう)” をテーマに、日本とパラオの調査と比較を行った。私たちにとって身近な海は、水質汚染やプラスチックごみなど様々な問題を抱えている。これらの問題を解決するために、海が綺麗なパラオで行われている海を守るための取り組みについて調べ、日本の海洋問題の解決策として生かせないかと考えた。実際に調査してみると、パラオでは海を観光資源とし、多くの収入を得ているため、海を守るための厳しい条例が決められていることが分かった。また、日本



でも多くの取り組みが行われていることが分かったが、人々の関心や知名度が低く、あまり実施出来ていないことが分かった。これらの問題を解決するために、私たちは、「海洋問題解決のための資金の追加」「意識改革」「監視の強化」の3つを提案する。

## 2A Black Coffee

### SDG#1 - No Poverty Country Brazil

私たちのグループはSDG#1 “No poverty（貧困をなくそう）” をテーマとして選び、日本とブラジルについての調査、比較を行った。グループ内で “No One Left Behind” というSDGsのスローガンを考えたときに、最初に貧困問題が話題に上がり、興味を持った。ブラジルは国としての経済力は高いが、貧困問題においては発展途上であるといわれている。そこで日本との比較をしたいと考えた。調査の結果、ブラジルには多くの問題があるが世界が一丸となればどのような問題でも解決できるであろうという結論に行き着いた。例えば、雇用率を上げるためにハローワークを導入する、行政が行き届いていないので税制度を変更する、福祉が充実していないので医療センターを立ち上げる、ということを提案したい。

## 2B Green Apples

### SDG#1 - No Poverty Country Sierra Leone

私たちのグループはSDG#1 “No poverty（貧困をなくそう）” をテーマとして選び、日本とシエラレオネについての調査、比較を行った。シエラレオネはアフリカにある国であり、名前を聞いたことがない人もいるかもしれないが、2015年頃に大流行したエボラ出血熱で多くの死者を出すなど深刻な被害を受けたことで知られる国である。そこでシエラレオネはそのエボラによる被害もあって深刻な貧困状態にあるのではないかと考え、日本との比較調査を行うことにした。調査の結果、シエラレオネは第一次産業が中心であるために収入が不安定だということ、そして食糧不足や孤児の問題など、今もなおエボラの後遺症に苦しんでいるということが分かった。シエラレオネが貧困の状態から脱却するためには、資金援助や技術支援、農業支援などを通して第一次産業中心の状態を変える必要があると考えた。

## 資料9 生徒の感想（事後アンケートより）

自分の調べるテーマに関心を持って前向きに取り組むことが大事だと思う。班員で吟味できるようにいろんな角度から解決策を見つけられるといいと思う。

英語で調べたり表現したりするのは時間がかかって大変だと思いますが、その過程で学べる単語などもあり、さらに発表するために暗記することで新しい英語の表現方法を知ることが出来ました。また発表する際は文のみを暗記するのではなく、内容を理解しておくことが大事だと思います。本番はやっぱり緊張してしまうので自分の言葉で表現できるようにしておくことはとても役立つと思います。興味があるほど積極的に調べたりすることが出来るので、先にテーマを希望してそれでグループ編成するのもいいかもしれません！

NAME: \_\_\_\_\_ Class \_\_\_\_\_ # \_\_\_\_\_



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## SDG Global Solutions Project

**Goal:** In this project you will compare Japan with another country while focusing on one of the SDGs. You will study basic information of both countries, study specific information as it relates to the SDG of your choice, and finally come up with solutions on how to solve problems connected to the SDGs in one or both countries. You will produce a presentation that will be structured in three parts: Overview, SDG data, and Solutions. This presentation will be delivered in mid-December to a group of parents and various teachers. You will be expected to answer any questions about your presentation's material if asked.

Warm up questions and group work:

1. What is the main goal of the SDGs?
2. Who do you think created the SDGs?
3. There are 17 different SDGs, can you name any of them?
4. What countries will benefit the most from the SDGs?
5. The UN says that the SDGs will 'leave no one behind', what does that statement mean?

# What are SDGs?

**Overview:** From the United Nations Development Program website - The Sustainable Development Goals (SDGs), also known as the Global Goals, were adopted by all United Nations Member States in 2015 as a universal call to action to end poverty, protect the planet and ensure that all people enjoy peace and prosperity by 2030.

There are three main categories that SDGs fit into, but some of them are closely related to each other: environmental goals, employee goals, and community goals. In other words, the UN countries want to help the planet, help people with health and wellness, and help keep society safe and peaceful.

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)

### Environmental Goals

**6** CLEAN WATER AND SANITATION



**7** AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY



**12** RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION



**13** CLIMATE ACTION



**14** LIFE BELOW WATER



**15** LIFE ON LAND



### Employee Goals

**1** NO POVERTY



**2** ZERO HUNGER



**3** GOOD HEALTH AND WELL-BEING



**4** QUALITY EDUCATION



**5** GENDER EQUALITY



**8** DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



### Community Goals

**9** INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



**10** REDUCED INEQUALITIES



**11** SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



**16** PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS



**17** PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



My Group

---

Our Countries: Japan & _____	Our SDG Choice: _____
---------------------------------	--------------------------

- 32 -

## Project Overview (14 – 17 slides)

- Intro (3 slides)
  - Title page, group members
  - Hook
  - Overview of main points of the presentation
- Background (overview of the two countries 3-5 slides)
- Explanation of your research showing data/graphs/statistics/etc. (4~ slides)
- Possible solutions for either or both countries (3~ slides)
- Conclusion (1 slide)

## Rules:

- Presentation time should be around 10 minutes.
- Speaking time must be equal among all group members
- No script, however each student may have a note card
  - Note card can only have keywords/statements on them, no full sentences
- Audience will be required to make a question for each viewed presentation
  - 1 or 2 groups will be called on to ask their question, presenters must be able to answer the audience's question(s). (Including a teacher question)

## Schedule:

Day 1: ( ) – Basic overview of project – SDG discussion questions.	Day 6: ( ) – <b>Show solution</b> (to a teacher), <b>finalize all slides</b> .
Day 2: ( ) – Make groups, SDG and country choice, begin research	Day 7: ( ) – Peer review and critique, revise any speech changes.
Day 3: ( ) – Make an <b>overview</b> of your country with comparisons to Japan.	Day 8: ( ) – Finalize speech, slides, etc. Practice day.
Day 4: ( ) – <b>show overview</b> (to a teacher), collect <b>data</b> on SDG of your country, comparing it to Japan	Day 9: ( ) – Revision and rehearsal
Day 5: ( ) – <b>Show SDG data</b> (to a teacher), begin making <b>solutions</b>	Day 10: ( ) – Trial speech day with teacher critique and questions.

## Resources for SDG research:

**UNDP.org** = The official United Nations Development Program has a section on all the SDGs.

**sdgs.un.org/goals** = This goes over each goal's definition and criteria.

**SDG Indicators Database** = This is a complex system in which you can find data on your country connected with your SDG. It takes time to learn, so if you have any questions, please ask a teacher for help.

**Google Search**, '(Country Name) SDG(number)' = This will bring up articles and news or statistics of your country connected to your SDG. I recommend doing a lot of the searching in English; however, a little Japanese research is also ok.

**Overview Research:** What background information can you find that helps understand your SDG?

**Data Research:** What data/information can you find about your SDG and country?

**Solution Brainstorming:** Brainstorm solutions with your group, which are most effective?

**Peer Review:** Present your ideas to other groups, answer questions from those groups.

**Presenters** - give your overview, SDG data, and possible solutions.

**Listeners** - take notes while you listen, and ask follow-up questions about data, solutions, or information regarding the countries.

**Notes:**

資料 1 1 生徒発表スライドの例「Quality Education Country Ethiopia」

# 175,000,000

## SDGs 4 Quality of education

4 QUALITY EDUCATION

**Ethiopia and Japan**

## Ethiopia

The country on the Horn Africa  
The capital → AddisAbar

### Basic data

	Ethiopia	Japan
population	90million	126million
Area	1,104,000 km <sup>2</sup>	380,000km <sup>2</sup>
GDP	844million	49,700million
Political system	Federal republic	Democracy

### Education Background Information

	Ethiopia	Japan
Enrollment rate	85.6%	99.9%
Dropout rate	61.8%	0.16%
Literacy rate	39%	99%
Secondary education enrollment rate	11%	99%

### Conservation efforts

support from NGO

international meeting

### education environment

Japan

Ethiopia

supplementary material

### Cost for education

(US dollar)

Legend: Japan (grey line), Ethiopia (black line)

Source: ecodb.net

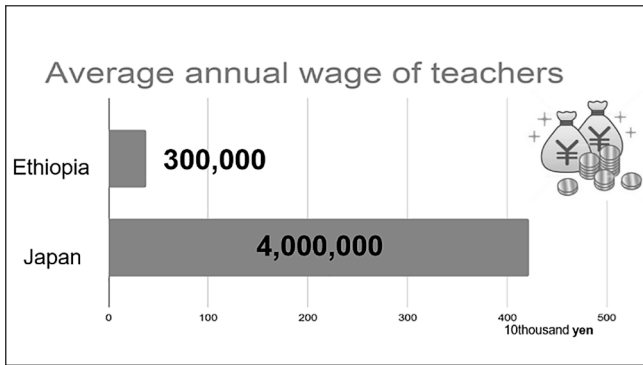
### The lack of teachers

Ethiopia

54students

Japan

17students



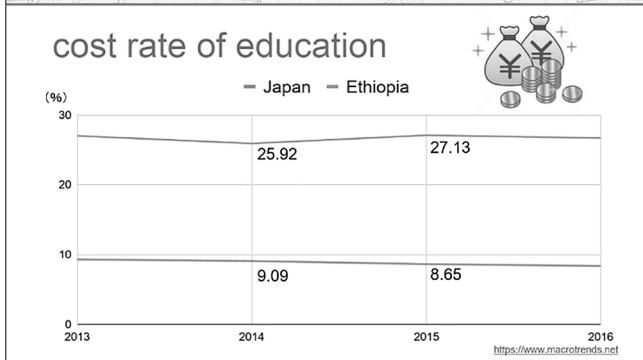
### Traveling to school

	The distance	How to move
Japan	2km	• Walk • Train • Bus • Car • Bicycle
Ethiopia	8.5km	• Walk • Bus(for a week) • Hitchhiking

Very far and little transportation...

- ### Recommendations for Ethiopia
- increasing the expenditure for building the facilities of school
  - increasing the number of teachers by calling volunteers.
  - making the bus which goes home to school for free.

- ### Recommendations for Ethiopian aid from the United Nations
- financial support
  - send teachers
  - transportation maintenance



- ### conclusion
- Bad education environment  
→increasing budget / financial support
  - Lack of teachers  
→increasing the number of teachers
  - Inconvenient way to school  
→making buses / maintenance support
- Thank you for listening!**

## グローバルプレゼンテーション（発表会）の様子（令和2年12月19日実施）

